

The SCP Foundation エージェント J の日記

カッコカリ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

元軍人の若者が財団に連れ去られた！記憶も処分されて自分の名前が思い出せないけど実は彼はSCP！？

超人と戦わされるわ、トマトが襲ってくるわ、異世界探検させられるわ拳句の果てには機動部隊に配属！？

でも給料高いから頑張る！

つかSCPってなによ。え？何？日記書け？

注意：この小説は色々常識外れなオリ主君が財団に収容されたSCP達と戯れるお話を日記形式で上げていくSCP財団の二次創作小説です。

（ミーム汚染）

やつつけにつき、閲覧注意。

目 次

第一話 僕を忘れて、俺が生まれた。
第二話 今日も財団は平和です。
第三話 理不尽だ
第四話 SCP | C o n t a i n m e n t | B r e a c h
第五話 エージェントJ、走る

44 32 23 14 1

第一話 僕を忘れて、僕が生まれた。

★月○日

どうしてこうなった。

今日初めて日記を書くが、こうなった原因はあのクソッタレな財团の所為だ。日記を書くのは命令されてだ。なに書けばいいのか良く分からぬが、とりあえず書くことにする。

俺の名前はジョン・ドウ。今決めた。年齢は忘れた。元の名前は消された。だからジョン・ドウだ。少し前までは何処にでもいる家庭に居たけど、いきなりS W A T よろしく武装した連中が押し入ってきて俺を拘束しやがつた。

一応弁解させてもらうが、クソッタレな犯罪もしていないし、片棒を担いでもいないし、クソッタレな魔法の粉だつて吸つてない。健全な元軍人だ。まあ俺のことは置いとこう。その時だ。財団というのを知つた。

俺はどうやら世間様から見て異常な存在らしい。何が異常なのかはいまいち解りづらいが、そういうことらしい。

でだ。そういう異常な存在を収容し、保護、管理するのが財団の目的らしい。中には放つておくと人類が滅亡してしまうようとびきりクソッタレなものもあるらしい。

俺もそういう連中と同じ部類に入るらしく、こうやつてコミュニケーションが取れるなら財団に協力をしてほしいということだ。その分給料もバカ高いし、働きぶりによつては自由な時間も設けてくれるそうだ。

特に断る理由は無かつたし、軍に居た時より給料が良いから俺は二つ返事で了承した。金は欲しいからな。あればあるだけ不自由なことは無いはずだ。

まあ、その後は結構散々な一日だつた。

血は抜き取られるわ、意味の分かり辛い質問が書かれた紙を書かざれるわ、全身に見たことのない刺青を掘つた訳の分からぬ言語を話す男と殴り合いさせられるわで散々だつた。こつちは素手なのに

アツチは剣持つて問答無用で襲ってきた。

その日の夜に日記書いてるが、脇腹刺されるし、殴られたところは今でも口の中が痛え。指は多分折れたと思う。アバラも一、三本くらい折れたと思う。

まあ、俺はあいつの両肩と両足の骨を外して碎いてやつたがな。ざまあみろ。

こうやつて起きたことを書いてるが、ちょっと財団に入つたことを正直後悔してる。特に最後、あいつコエエよ。なんか笑つてたし――

あ、でも最後に綺麗な女と楽しく話が出来たのは良かった。ああいう憩いの時間は軍でも少なかつたからな。役得だつた。

風呂から上がつた後に科学者らしき男が俺に明日も色々検査をすることをさつき伝えてきた。明日もやるのかよ。という俺のゲンナリした気分なんざ関係なくクソッタrena一日は終わる。

そして、恐らく明日もそんなクソッタrena一日が始まるのだろう。まあ、日本でいう住めば都なんて言葉があるし、慣れれば天国に見えてくるだろう。

多分。

それにしても、財団つてやつらはなんで俺に日記を書かせるのかねえ・・・。

★月■日

おはよう、クソッタrena一日。昨日は色々あつたからちよつと疲れてて瞼が重い。まあ、怪我は大分治つてたし、それほど悪い気分じゃない。指は……まあ、まつすぐにしとけば治るだろう。つうか治つた。

今日のは検査と言うよりも実験みたいだつた。なんか古めかしいカメラ（ポラロイドカメラ？）で撮られて写真を見ると、俺が昨日の綺麗な女と楽しく話しているのが映つた。

なにこれ？過去の出来事を映す不思議なカメラ？

研究者は特に何も言うことなく次だ。と言つて俺を引つ張つていく。

今の俺は全身に鋼鉄製のベルトで全身をグルグル巻きにされた状態になつてゐる。口枷もついていて出来ることと言えば息と唸り声を上げるくらいだ。

理由は何でも昨日の一件でなんか滅茶苦茶やばいことを俺はしたらしい。拘束具持つてる奴らはなんか務めて丁寧な口調で俺にくどいくらいに説明して着るようにお願いしてきた。まあ、この間のS W A Tみたいな連中に銃向けられたくないし。俺は二つ返事で了承した。

それにしてもあの拘束具ちゃんと綺麗にしてたのかよ？なんか背中がかゆくて何度か身じろぎした。その所為か、ベルトの金具の何個かがはじけ飛んじまつた。多分錆びついてたんだろうな。絶対綺麗にしてねえよアレ。俺が身じろぎするくらいで壊れるとか、衛生管理どうなつてんだよここ。

なんか研究者みたいなやつら…面倒くさいもう科学者共でいいや。科学者の奴ら、やたらに慌てたから思わず俺も謝つちまつた。あれ、結構高い奴だつたのかな？まあそうだよな。ほとんど金属なんだから金は掛かるよな。

だつたらもうちよつと保存状態を良くしろよ。定期的にオーバーホールしとけよ。

給料出るらしいけど、天引きされるだろうな。

で、その後、ちよこつとだけだが説明はしてもらつた。何でも俺のスペックを知るための実験をするらしい。昨日のアレはその一環らしかつた。

それさ、最初に説明するべきだよな。元からだがなんかいよいよもつて財団が妖しい組織に思えてきた。了承した手前、こうして日記に愚痴ることくらいしかできないけど。

次の実験はなんか目の前に一個のトマトが置かれた。で、紙に書かれた奴を読み上げたら、いきなりトマトが襲つてきた。

いきなり来たから思わず多分鏽びてた拘束具引きちぎって叩き落としちまつた。いや、あぶねえよ。ていうか音がやばい。バアン！つて音がしたバアンツ！つて。どんだけスピードが出てるんだよ。

そしたら奴らが来やがつた。俺を捕まえたクソツタレなSWATもどき共。

いやいやいや、だつてね、いきなり飛んできたら叩き落としちゃうじyan。俺悪くねえよ。文句ならこれ提案した奴に言えよ。

まあ、そんな俺の訴えなんて聞いてくれるわけもなし。俺は呆氣なくお縄に付いた。

前よりも新しい？ゴツくなつたモノを着せられた後、今日もまた綺麗な女と会つた。いやあ、いつ見ても綺麗だつた。一時間くらい何気ない会話しかしなかつたけど、今度もまた会えると良いな。こんなクソツタレな施設に入れられられちまつたが、この時間だけは至福だと言える。

その後は見渡す限り真っ白な一室で俺は一夜を明かすのであつた。

★月△日

ハロー。中は暖かかつたけどベッドもクッションも何もない所で寝てたから背中が痛え。今日は初つ端から銃持つた例の奴らを引き連れてた。

いや、ほんとマジで銃は勘弁してください。怖いから。銃向けられるのは困るんだけど。銃は日ごろから触つてたからそれだけに銃の怖さは十分知つてるんだつて。

銃は下してくれつて言つたけど全然聞く耳持つてくれなかつた。

……なんか段々腹立つてきたぞ。いきなり連れ去られるわ、殺し合い紛いのことさせられるわ、あ、でも綺麗な姉ちゃんとはまた会いたいかも。

まあ、それはそれとして、SWATを引き連れた科学者が何事か命令すると、俺を台に載せて付いて来てくれたとか言つてきた。

それは何かジョークで言つているのか？

俺に拒否権なんかがあるとは知らなかつた。

俺に自由意志なんてあったのか、つて聞くと科学者は申し訳なさそうな表情で謝ってきた。

いや、おせえよ。色々言つてやりたかったが、まあ、怒らせて殺されたくないし、行くということを伝えたら、今度はなんかヘリに載せられた。

ほんと、財団つてなに？

★月●日

今日は色々怖かつた。なんていうか、マジでふざけんなって言つてやりたかつた。

なんか青い鍵渡されて錠前の付いたドアを開けて潜ると、異世界だつた。

自分で言つてもどういうこと? つて思う。

サイトなんたらとかいう施設に着くと、俺は件の青い鍵を渡され、それを使って鍵を開けて、ドアを潜つてくれなんて言われた。

その先にあつたのは、何処かの森と小道、そして深い青みがかつた霧だつた。そこをカメラと通信機で話しながら進むんだが、途中から後ろから、そう、化け物が出てきた。黄色い、光る眼をした紫色の体毛をした猿か犬みたいな化け物だつた。

どちらかというと狼かもしけない。

俺は死にたくない一心で走り回り、気付いたら目の前に木製のドアがあつた。それを蹴破るとその先に居たのは俺に命令をした科学者がキヨトンとした顔をしていた。

かなり腹が立つたが、振り返るとあの世界は無くなつていた。

頭がおかしくなりそうだつた。いつたいあれは何だつたのか、あまり考えたくない。今日は此処までにする。あの狼の遠吠えみたいな声が頭の中で響いてる気がする。とにかく、寝たい。

★月×日

ああ、怖かつた。今日は休みらしいから一日ゴロゴロしどく。幻聴みたいに聞こえていた遠吠えのような声は、一日寝たらもう聞

こえなくなつていた。

科学者に許可を取つて歩き回つてたら、なんか、オレンジ色の、こう、ゼリーミたいな生き物が上から落ちてきた。

その時の感覚は何て言えばよかつたのか。とにかく気持ちが良くて幸せだつた。超良い経験したおかげか、なんか昨日の恐怖心とか、全部どうでもよくなつた。

昨日のアレは何だつたのかは分からないが、とりあえずあの狼みたいなやつはまた会つたらぶん殴ろう。うん。そうしよう。そして、あのオレンジスライムはまた今度触ろう。

★月 α 日

さて、結論から言えば狼はぶん殴つてきた。科学者にお願いしてもう一度あの青い霧の小道に入つて追つかけてきたところ俺はカウンター気味に吹つ飛ばしてやつた。

うん。傍から見たら俺は何処の超人かと思つてしまつた。多分、これが俺の異常な部分なのだろう。元から結構力は強いとは思つていてが、意識を集中させると、物体を粉みじんにさせることが出来るほどの超人的な力を発揮させられるらしい。

つうことは、この間俺が壊した拘束具つて、あれつてつまり俺が無意識にやつた所為？

そりや、科学者も慌てるわ。彼奴らから見て俺は怪物で、それを抑えなきやなんねえんだからそりや慌てるわ。

まあ、それらを踏まえて思うことは、脳味噌までは筋肉にはなりたくないな。ということだ。

★月◇日

今度は俺と同じSCPに食事を与えることをやらせるらしい。そのSCPが何らかの敵対的行動を起こしたらすぐにぶん殴れとのお許しが出た。

で、食事を運んだんだが、その相手が滅茶苦茶美人だつた。ただ他の人間と違つたのは動物（キツネ?）の耳と9本の尾を持つていたこ

とだ。事前に近づいちやいけないと警告されたので、意識してやつたが、見れば見るほどに美人だつた。

彼女は終始俺を見つめてニッコリと微笑んでいた。俺は曖昧に笑い返すことしかできなかつた。

正直、今も子供みたいにドキドキしてる。なんか、ここつて美人揃いな気がする。俺の運が良いだけか？

☆月×日

なんか、実験用の機動部隊に俺は入れられるらしい。今までの実験記録から戦闘能力としてのスペックは予想を遥かに上回り、アベル、つまりこの間殺し合いした全身刺青男を抑えることが出来ることがら、その部隊に配属することになつた。給料もアップし、比較的自由で居られる権利もゲットできた。これは結構おいしい。

それに、あの綺麗な女も一緒の部隊で、名前はアイリス＝トンプソンっていうらしい。最近は話す機会も増えたし、あのオレンジスライムとも定期的にじやれあつてるなど、結構充実した日々を送つてる。

住めば都つて言うけど、その通りだな。

そうそう、その機動部隊だが、名前はオメガ7というらしい。そこで俺はアベルと一緒に戦闘部隊だそうだ。どうせだつたらアイリスと居たかつたなあ・・・。

☆月×日

団つたな財団んんんんん!!

一回しか会つたことが無いからアベルがどういう奴か知らなかつたけど完全に狂人じやねえか！

ふざけんな！任務が終わると同時に俺を殺そうとかマジでふざけてやがる！つうかお前何人だよ！何言つてるかわからんねえよ！

だけど口汚いこと言つてるのはわかつたからぶん殴つて眠らせた。というか剣振り回してきて怖くて正直ちびりそだつた。

気落ちしていた俺にアイリスから少し心配されてしまつた。施設

に戻つたらオレンジゼリーと戯れよう。

☆月☆日

問題です。

目の前にデカイトカゲが居ます。そいつは滅茶苦茶強くて貴方に襲い掛かってきます。貴方ならどうしますか？

A. ぶん殴る。

年甲斐もなく怪獣を見たことにも興奮したが、同様に怖かつた。そして泣いた。アイリスと999（オレンジゼリー）に慰められた。なんか最近、男としての威厳が・・・。

☆月■日

宗教団体つて怖いな。俺もたまに神に祈つたりはするけど、あそこまで過激な連中にはなりたくないな。

アベルは安定して狂人だ。精神的に色々疲れる。任務が終わると隙を見て俺を殺そうとするし、負け認めようとしないし、眠らせるこつちの身も考えてくれ、ないんだろうな。

そうそう、最近は他のSCPとのクロステストをやつてる。目を瞑つた瞬間こつちに瞬間移動してくるあのSCPにはびっくりした。持ち上げて、遠くに放り投げるのを繰り返してたら実験は終了したけど。アレは怖かった。

他にもサイボーグ少女というSCPが居て機械と女の子が融合した見た目をしていた。ほとんど何も反応が無くて困ったが、話してると次第に眼の光が赤から青に変わっていた。どういう意味なのかは分からなかつたが、まあ、敵ではないとは思つてくれたのだろうか。これからも機会があれば話をしてみよう。

☆月○日

今日は科学者に呼ばれて以前食事を運んだSCPとコミュニケー
ションを取れと命令された。此処に住み始めてはや一ヶ月くらい経つて、財団がどういう組織なのかはだいたい分かつた。

財団は取り敢えず人類存続の為に犠牲を払いいつも頑張っている組織だということだ。で、財団が管理、収容、保護しているものには放つておけば人類が絶滅するKeter、たくさんの人を殺してしまった物Euclid、扱い方を間違わなければ基本無害であるSafeなど、この三種類に分けられる。他にも数種類あるらしいが、俺が知ることが出来るのはこの三つだけらしい。

そして、これから俺が会うあの狐耳の美女だが、アレは放つておけば人類が滅亡するKeterクラスというらしい。

俺は、生き残れるのだろうか。

☆月◆日

生きてた。戦々恐々としていたが、なんていうか、拍子抜けするほどあの美女は俺に友好的だった。ただ、突発的に生き胆をくれとか言われたときは冷汗が出た。本気ではないにしてもあの美女は俺の反応を見て楽しんでいたらしい。性悪と言うか、いたずらっ子と言うか、科学者からは念入りに縛されるなよと釘を刺されたが、まあ、丈夫だと思う。

この日は沼女というSCPとのコミュニケーションを取った。声がまるで少女のようだつた。女人型を取つていたから、きっと女の子だと思う。良く分からぬ。色々話していると、時々この沼女は、元はただの人間だったのではないかと思う。

いや、ただの俺の戯言だな。

それから30分程度話していくが、懐かれた。背中に乗つかつて少しづつ俺を包んできた。何でも暖かいからだそうだ。クロステストは滞りなく終了したが、収納フロアを後にする俺を表情は分からなかつたが、寂しそうに俺を見ているのが、少し印象的だつた。

☆月★日

オメガ7は戦闘部隊だ。俺にとつてはこの異常な身体能力を最大限に生かせるし、給金も良い働き口だ。元軍人おかげで戦闘することにそれほど忌避感はない。

だけど、それはつまり財団との敵対的な勢力とも戦わなければならぬということだ。

子供を殺すのは、辛い。その日はやはり色々と限界だつたのかもしれない。八つ当たり気味に俺はアベルを殴りまくつてた。
おかげでアベルも普段より大人しかったからまあ、これで良しとしよう。

最近は、アイリスの能力を暗殺として使おうと考えてる奴らの存在が耳に入ってきた。アイリスは優しい奴だ。一人だつた俺にたまに話しかけてくれた程度だが、それでも救われた部分がある。本人は人殺しをしたくないと言つて いるのに、強要しようとする。

なんとかしてやりたい。
俺の個人的な気持ちだ。

☆月○日

まあ、当然俺の意見なんざ通るわけがなかつたが、アイリスを暗殺者にしようとした連中は謎の行方不明になつたとかどうとか一時期噂になつたらしい。真偽の程は分からぬけど、多分嘘だろう。財団が貴重な人材を廃棄するとは思えない。

今日は一日暇だつた。アイリスや他の部隊と会話に花を咲かせた。時折コロッと笑うアイリスの笑顔は見ていて癒される。書類整理とかで誤つて重要書類と廃棄書類を混ぜてしまつて慌てていた時は実に微笑ましかつた。と思わず懐かしんでしまつた。
たつた数ヶ月しかないのに激動の日常で、何年も生きた氣になつてしまふ。少し年寄り臭かつただろうか。
最近の流行とか全然わからなくて話についていけなくなつっていた。ちよつと悲しくなつた。

☆月○日

久しぶりに日記を最初から読み返してみた。たつた数ヶ月しか経つてないが、昔と比べると今は少し殺伐としている。最初のころは

驚きと突然の連続で自然と日記も感情的になつていていたのだろう。そう考えると少し恥ずかしいな。

今日はあの狐の美女クミホと話をする。

最近は定期的に彼女と話すようになつた。昔よりは彼女の扱い方も慣れてきた。

話をしていると最初のころと比べて少しやつれたとか言われた。
多分、そんなんだろうな。今日はすぐに寝ようと思う。明日もクロ
テストがあるし、銳気を養つた方が良いだろう。

☆月△日

今回はブライト博士という人がクロステストを執り行つた。ぜんまい仕掛けと言う機械に俺を入れて実験したいらしい。

特に変化はなかつた。ブライト博士は終始疑問符を浮かべていたらしいが、特に俺に異常はなかつた。

だが、他のDクラスに試したらそいつが暴れ出して他の職員の殺そ
うとしていたので、殴つて黙らせた。程なくしてそのDクラスは急死、俺にやつたこととDクラスにやつた実験は同じだつたが、一体何の違いがあつたのかブライト博士にも分からないらしい。

またやりたいと本人は言つていたが、上司からは以後、二度とやつてはいけないと言われたらしい。

それにもしても、なぜ俺には何の変化もなかつたのだろうか。

☆月△日

ブライト博士からの命令で南緯47度9分 西経126度43分
という太平洋の海の底に向かうことになつた。クトゥルフ神が来る
とかどうたらこうたらが聴こえたが、結局何もなかつた。
うん。俺は何も見なかつたし、発見しなかつた。

■月■日

実験の最中、SCP-1682、不死身の爬虫類と言う以前戦つたト
カゲ怪獣が逃げたらしい。当然、現場に急行、というか、俺が向かつ

てぶん殴つて抑えた。両手両足を扼いどけば大人しくなるだろう。噛みついて来ようと舌から上あごを引っこ抜いといた。

なんか、前よりも力が上がった気がする。色々心当たりがあるが、件のブライト博士の俺を見る目が危なくなつた気がする。紅い宝石の首飾りを差し出してきた時は丁重にお断りした。事前にブライト博士を知っている人に彼のことについて訊いておいてほんとに良かった。

その夜は、妖狐変化から晩酌しろとか言われた。胃が痛い・・・。酔つた勢いで肝臓を引っこ抜かれたのは本当に勘弁してほしかつた。でも、瞬く間に肝臓が再生したのは、俺自身驚きだつた。彼女も予想外だつたらしい。今だけはブライト博士に感謝して置こう。おかげで命拾いした。

ただ、それ以降からしきりに食わせろ食わせろとせがんでくるのはどうにかしてほしい。俺の身が持たない。

■月△日

最近、新しい心の清涼剤が来た。バスケットボールくらいの小さな機械のようなものだ。目玉が付いていて、名前はアイポッドだ。たまに一緒に散歩したりする。途中で999と合流して、999を背負いながら施設内を歩き回つて楽しかつた。

心が洗われるようだつた。

ああ、幸せ。

■月○日

オールドマンが脱走した。ポケットディメンションに連れてかれた職員の救出には成功したが、持つてた日記が腐食した。新しいのに買い換えないといと。

γ月γ日

最近、アベルがどうも様子がおかしい。多分、他のSCPと戦える

機会が減ってきたからだろう。息抜きと称して戦つてやつてはいるが、恐らく満足はしないだろう。とにかく殺しがしたい。彼奴はそういう奴だ。少し彼奴のことが分かつた気がする。彼奴は生きるために殺しをしてるんだ。人間が動物の肉を喰らうように、あいつは殺した生き物の命を喰らっている。それで生きてるんだ。

何となくだがそうやつて生きているのだと俺は確信した。SCPとはいつたい何なのか、時折考えるようになる。どこから生まれ、何処に現れるのか。結局、誰も答えは見いだせはないが。そういうものだというあいまいな答えで納得するしかないのだろう。曲りなりとはいえ、俺もまたそのSCPなのだから。

■月 α 日

超痛え。警備員が投げたフリスビーが俺の腕を斬り落としやがった。マジでどうなつてやがる。後で科学者から聞いたが、どうやらそれもSCPらしい。取り敢えず腕は完全にくつつくまで一日休むことにする。SCP-1999が心配になつて俺を見に来てくれたのが涙を誘つた。

今日一日こいつを抱き枕にして寝ることにする。

■月Ω日

トカゲ怪獣がまた逃げた。取り敢えず手始めに両手足を握りだが、すぐに再生ってきて、肩を食いちぎられた。それからはあまり覚えてない。気付いたら延々とトカゲ怪獣の頭をもぎ取つてやつた。大人しくなるはなるが、すぐに再生を始めるので鬱陶しい。収納フロアが出来るまでもぎ取り続ける作業だつた。俺の精神がごつそり削り取られた気分だ。

傷はもうすでに治つていた。元々身体は異常だつたが、いよいよもつて人間離れしてきたなあ。

第二話 今日も財団は平和です。

Ω月γ日

今日は〇五評議員から直々の命令が下つた。とある砂漠地帯を調査しろのことだ。

それで、選出された三人の調査エージェントを引き連れての調査を行つた。砂漠は日が出ている時はサウナのように熱く、歩くだけで辛い。

そんな時だ。一人のエージェントの拭つた汗が大量の砂で出来た蟻を造り出した。

水分を吸うことで、その量に比例して、砂で出来た動物の種類も大きさも変えて造り出すのだろう。そいつらはかなり攻撃的だつた。侵入者である俺達に対して。

一人はやられたが、あと二人は、身体能力の高い俺が肩に担いで走ることで難を逃れた。今夜にでも調査エージェントが上に報告をするだろう。あまり話したことは無いが、あのエージェントの死に、二人は悲しんでいた。

これ以上、被害は出て欲しくはないというのが、俺の素直な気持ちだ。

久しぶりに両親の墓参りをしてみようと思う。幸い、申請が下りた。他のエージェントと一緒に店の並びが変わっていた。いつも

久しぶりに戻った町は少しだけ店の並びが変わっていた。いつも通つていたバーはネオンの一部が故障していた。何気ないそんなものが、今となつてはとても価値のある様に俺は思えた。

両親の墓は、誰かが掃除してくれたのだろう。綺麗だつた。色々話したいことはあつたけど、それは心の中だけにしておく。

帰りに土産を買って、オメガ7の全員に配つておこう。アベルは、まあ、デカい肉でいいだろう。

Ω月α日

オメガ7が解体された。いずれこうなるのではないかと思つていたが、案の定だ。他のSCPと戦える機会がほとんどなくなつたアベルが、暴れ出した。十数人に上る死者を出したが、何とか取り押さえられた。

今ごろ深海の牢獄で眠つてゐるだろう。

アイリスは格納エリアでひつそりと暮らしてゐる。定期的に一緒に物を食べて話したりは今もしてゐる。そういえば、ふとアイリスが自分の持つ能力について怖くないのか？と聞いてきた。表情は良く分からなかつた。素朴な、何気ない疑問だつたと思う。

俺はアイリスのそれ以外を見てきたから、特に何も感じはしなかつた。というか、今更というのもある。

素直な気持ちを伝えたら、アイリスははにかんだ笑顔を向けてくれた。まあ、喜んでくれてなによりだ。あ、一応誓つて言うが、彼女に氣があるとかそういうのじやない。ただ、一人の友人として彼女の問い合わせに真摯に答えただけだ。

出ていく時、近くに居たエージェントたちが滅茶苦茶ニヤついてヒューヒュー言つてきたから一人一人捕まえてデコピンしておいた。逃がさん。

俺のデコピンは痛いぜー。

大丈夫大丈夫、力加減は考えてるから。ちよつと額の皮が削げるだけだからー。

Ω月T日

またサイボーグ少女とコミュニケーションを取つた。今度は機械的な部分の目の光が青から緑に変わつて、終始俺の隣で座つてゐた。胡坐を搔いてその上に載せて、それほど変化はなかつたが、自然と寄りかかつてきて、少しだけ安心してゐるよう思えた。

人間的部分が少し残つてゐることに、俺は少しホッとした。こんな体になつてもちゃんと生きているという証拠だつたからだ。

ただ、やはり言葉による受け答えはできなかつた。

もし機会があれば、また来よう。

Ω月〇日

今日は上司から厳重注意を受けた。とあるSCPを誤って破壊してしまったことだ。名前はビルダーベア。オブジェクトクラスはKeterであり、逃げ出したこいつを捕まえようとして金切り声を上げてくるから驚いて咄嗟とはいえ割と本気で殴ってしまったため、現在に至る。

しばらくDクラス職員と一緒に173のフロアの清掃を命じられた。最近173の動きが見えてきた気がする。正直、こう書いといてなんだが、人間離れしすぎて自分につくづく呆れてしまう。

そんな俺に関わらず、アイポッドとくすぐりオバケは俺を癒してくれる。もう俺の味方はお前達だけだよ。

ブライト博士と名乗るオランウータンから明日の実験の協力をさせられた。なんでもレゴブロックのSCPの調査に協力してほしいとのことだ。

いや、いやいや、オランウータンが何でブライト博士なのか一瞬わからなかつたが、多分乗り移つたんだろう。資料でそういうことが出来るのを思い出した。まあ、研究に参加するのは別に良い。多分、俺は死ないとと思う。

そういえば、最近あのトカゲ怪獣に習つて不死身の超人とか言われるようになつた。身内ネタではあるが肩身が狭くなつた気がする。会うたびに新人研修で来た科学者に怖がられるのは結構心にクるものがある。

目を輝かせて近づいてくる奴なんて稀である。

妖狐変化にまた呼ばれた。もう、肝臓抜かないでください。痛いです。お詫びと称してキスされた。

俺のファーストキスが・・・。

Ω月A日

f u c k
y o u !
s c r e w
y o u !

あのキチガイ博士！レゴブロックのSCPでトカゲ怪獣を作りやがつた！どんな悪夢だ！？

しかも本物のケソトカケも脱走しやがった。色々とストレスがたまっていた所為か、今の俺だつたら神すら殺せる気がする。

手始めに三四を浮かせてそのままひたすら殴り続けてやつた
新しい収容スペースが出来上がるまでな！再生するんだつたら再生する
必要が無く、且つ逃げられないようにしつつ、攻撃も出来なくする。
こう痛みでこそ手を焼ければ、

抉り込むようにひたすら打つ！マ

熱で手が燃えようと、俺の拳は己の兵士としてのプライドに掛けて拳を止めなかつた。

やめろ？ 触るな？ 殴るな？

そのまま殴り続けながら取

そのまま殴り続けながら収容アヘーブに運んでやんよお！

があつたな。

Ω月B日

たかが日記に何書いてるんだろ、俺。昨日の奴、読んでてちよつと

恥ずかしくなつた。

まあ、それはそれとして、やりすぎた。クソトカゲを殴り続けたあ

の日からというもの、あのクソトカゲはどうやらかなりお冠らしい。頻りに汚い言葉で俺を罵つて隙を見ては脱走してくる。

目につく生物を片つ端からじやなく、とにかく俺だけを狙うようになつた。いや、まあそれは良いんだけど。脱走する頻度が多くなつたのは非常によろしくない。

ということで、173のフロア清掃に続き、居室をあのクソトカゲが収容されるフロアの近くに移転することになつた。

ちくせう

ただ、最近はダクトを通つてアイポッドが来てくれるようになつたのは嬉しい誤算だつた。まあ、すぐに飽きて戻つてつちやうけど…。俺の部屋は監視カメラ付きで、常に682を監視している。何かしらのアクションがあつた場合報告もするが、脱走しようとした瞬間、あえて隔壁と収容スペースを開けて殴つてお帰り願うと言つたところだ。

いらっしゃいませ！（殴）おとといきやがつてください！

そしていつもの塩酸に満たされた収容スペースに叩き落とし、隔壁を下す。

最近はいつもこんな感じだ。この方法が確立されてから、あのクソトカゲによる被害はめつきり減つた。これを続けていれば現状大丈夫だと思うが、それまでにちゃんとした管理方法を財団には編み出してもらいたいものだ。

α月H日

最近監視カメラが別のカメラへと切り替えられてしまう。棺が置かれた小さな部屋だ。見ていると時折恐ろしい画像に切り替わり、精神的な部分がガリガリ削られていく気がする。科学者に相談してみたら引き攣った笑みを浮かべながらオールドA-Iの仕業だということを教えてくれた。

なんで顔をひきつらせているのか聞いたら、その棺、長く見てると死ぬSCPらしい。つまり俺じやなかつたら見ていた奴は死んでいたということか。

相変わらずほとんどのSCPが殺意ありまくりだなあ。むしろ凄

まじすぎる。アイリスやアイポッドとかくすぐりオバケとかそういう友好的なSCPは他に居ないのかなあ。

取り敢えずオールドAIのところに行こうと思つたけど、なんか行く先々で隔壁閉められた。嫌われてるのかな・・・まあ、こじ開けたけど。

一応熱心な説得の結果オールドAIには以後俺の監視カメラは勝手に変えない様にしてもらえた。これで一安心だ。

あとで〇五評議員からどうやつたのかつて聞かれたから、ディスプレイにデコピンを何回かやつたら言うことを聞いてもらつた。

と、正直に言つたらふざけるなと怒られた。

ちゃんと正直に言つたのに・・・。

誰も信用してくれないことをアイリスに愚痴つたらやれやれと言ひながら慰めてくれた。やっぱリアイリスは女神の生まれ変わりじゃないだろうか。

涙がちよちよ切れそうだ。

α月呑日

いつも通り682を監視しながら日々が続く。最近はオメガ7時代の同僚から差し入れでピザボックスを貸して貰つたりする。そうそう、このピザボックス、SCPらしい。このピザボックスに触れた奴は好みのピザが出来上がるらしく、その種類は色々、だそうだ。俺は肉と野菜がバランスよくトッピングされたピザが数層ほど積みあがつたハンバーガーみたいなピザだつた。

高カロリーすぎて胃がもたれそうだが、一度こういうのを食べてみたかったというのは、ここだけの内緒だ。

α月噴日

オールドマンがまた逃げた。絶対彼奴この状況楽しんでやがる。Dクラス職員も科学者も引きずり込まれたら財団が困る。貴重な人材は失わないに限るのだ。

それをあざ笑うかのように定期的に脱走する彼奴を殴つてもきっと文句は言われないはずだ。手の皮膚がちょっと腐つたけど、車田飛

びに吹つ飛ばされたオールドマンを見ていて、すつきりした。

少し時間がかかったが、オールドマンの対処法は覚えた。腐る前に殴つてすぐに引く。そうすれば比較的少ない腐食で殴れるということだ。

え？ おかしい？

知つてる。

でも出来るんだからやらないに越したことはないだろ？

この際開き直つてSCPとしての自分を最大限に使つた方が世の為人の為になるだろう。

α 月 α 日

カイン怖い。クロステストで彼を殴り続けるというものだが、壁のようなものが遮つてどうやつても傷つけられない。それどころか攻撃がそのまま自分に帰つてくる。

試しに我慢しながらひたすら殴り続けてみたが結果は同じだつた。敵にまわつたら絶対勝てないなこりや。

いや、もつとポジティブに考えよう。あの壁を碎けるくらいもつと強く殴ればきっと。

いやいやいや考え方が可笑しい。脳味噌まで筋肉になつて。流石にソレはマズイ。俺は常識人だ。ならばもつと友好的になる必要があるな。うん。

そう言えば、最近上司に頼んで友好的な知的生命体との意思疎通はできないかどうかを提案してみた。ようするにインターネットによるチャットのようなシステムだが、他のSCPの意識的ミームの影響が起きかねないから却下された。

まあ、そうなるよな。ダメ元で聞いたが、予想通りだ。最近はト力ゲもおとなしい氣がする。まあ、気を伺つているのだろうが、あまり刺激をしなければ大丈夫だろう。

ただ、ブライト博士はここぞというところでアレを引っ張り出さないでほしい。毎回毎回対応に追われるのはこっちなんだから、もう少し苦労を考えてほしい。

考えないんだろうなあ。

α月γ日

クロステストで、今日は裸の女の子と顔を合わせた。務めて冷静であることを意識していたが、それからというもの、身体が熱くなつて動悸も激しい。

ここだからこそ、書けるがその、性欲が酷い。

財団に入つて以来そんなこと気に掛ける暇がないくらい修羅場を潜つてきたから、忘れてたけど、俺はやはりれつきとした人間なんだと思う。

食欲もあるし、睡眠欲もある。ならば当然性欲もだ。こうやつて知的っぽく振る舞つていないと頭がおかしくなりそうになる。

俺でこうなるのだ。普通の男が彼女を見たらどうなるか分かったものじゃない。俺は紳士だ。女性に乱暴なんてやるわけにはいかない。

今日は早めに寝ることにする。夢の中ならば、性欲なんて湧かななんでこういう時に限つて妖狐変化から呼ばれなければならぬんだ。

拒否権？あるわけねえだろ。

β月α日

一体何があつた。ここ最近の記憶がない。気付いたら自室に居たし、いつも通りの朝のような気分で今すぐにでも仕事が出来るが、最後の日記から今に至るまでのこの記録が綺麗さっぱり消えていた。今のカレンダーと最後の日記から計算して約一週間。

682の監視も大事だが、一週間前からの自分の足取りが知りたい。暇を見ては科学者や同僚に訊いてみたけど、全員揃いも揃つて顔を青ざめて謝つてくるし、ブライト博士に至つては、あのブライト博士が言葉を濁すし、

あの

ブライト博士が

言葉を濁す。

財団屈指のキチガイが人のことを気にするほどの災難。その中心に俺が居ることは確かだ。そこまでの惨状、知るのは少し怖いが、取り返しのつかないことをしてしまったのなら責任を取らなければならない。

アイリスは知らないらしい。当事者じゃないらしい。なら仕方ないか。

しかし、調べようと動いている俺をまるで見計らつたかのように一週間の謹慎処分を言い渡された。

本当に俺に一体何があつたんだ。誰か教えてくれ。最悪〇五評議員会に直談判しなければ。

そう言えば、〇五の職員にブライトの父親が居たな。例え他のエージェントを敵に回しても、俺の記憶は取り戻さなければ。

第三話 理不尽だ

G月A日

減俸には勝てなかつた。一応〇.5に直談判して記憶を戻してもらおうとしたが、これ以上給料を減らされたくないので、このまま職務を続けることになった。

自分の抜け落ちた一週間の記憶。凄い気になるが、拘束されるわけにもいかない。諦めて職務に勤しむことにする。

そういえば、今日から妖狐変化のところに食事を持つて行かなくてもよくなつたらしい。胃と肝臓に痛い仕事が無くなつて良くなつたけど、本当に突然である。そもそも――

日記の最中にまた6.8.2が脱走しようとした。いつも通り殴つて大人しくさせて、職員に連絡して新しい隔離フロアの建設を申請しそう。相変わらず口汚い言葉で挑発していくけど、なんか最近はもう愛嬌だと思い始めてる。あれ?おかしいな。ブライト博士の気持ちが一瞬でも理解できると思つてしまつた自分が悔しい。

――今度また博士と実験してみようかな。――

G月B日

ブライト博士何やつてんすか。勝手に最後書き足さないでください。担当職員から怒られちやつたじやないですか。

今日も今日とて6.8.2の監視だが、それ以外やることが無いから暇だ。今日一日はクロス実験も無し。何だかんだで財団に入つて初めて平和な一日を遅れた気がする。

あれ、なんだろ、日記が水滴で書けない

G月C日

別の監視員と交代して俺はクロス実験を行つた。異常な身体能力が発現してしまつてから、俺の身体能力を解明させるための実験は度々行われていたが、今日はその続きが行われた。

最初はぜんまい仕掛けだ。俺の超人的な身体能力を作つた張本人であり、今の俺の始まりだ。

ブライト博士から聞くには、俺は入れられたときはノズルを *V ery fine* に設定していたらしい。それはぜんまい仕掛けが気まぐれにやつたことなのか、それとも俺だけ体内の何かが、ぜんまい仕掛けの改造に化学反応が起こつたのか。精密検査を何度も受けたが、未だ進捗は見せていない。

俺を取り口ブースに入れて *Coarse* に設定したが、何の変化も見られなかつた。*Rough* にも同じくだ。まるで俺の身体がそのままの状態で変化を受け付けないようだ。そんな感じだ。

一応、それぞれの状態で精密検査を受けたが、筋密度、骨密度共に異常はなかつた。心理検査にもこれと言つた変化は見られなかつた。筋力検査は行わないのか、と研究者に質問したら無意味だと言われた。そもそもうか。

不死身の爬虫類である682を軽々と殴り飛ばす腕力、アベルを取り押さえた瞬発力、カインの反射にも動じない頑丈な肉体。知能指数や道徳的価値観などに変化を及ぼさず肉体面だけに影響を及ぼしたぜんまい仕掛けが、一体どんな気まぐれを起こしたのかは分からぬ。

だが時折だが、自分の身体がさらに強く成長していく気がするのだ。あくまで気がするのであって正確なところは分からぬ。

だが、この動きは出来る、こうすれば出来ると思うと、大抵の動きはやろうと思えば俺は出来てしまう。はつきり言つて異常だ。ちょっと力を込めれば、アスファルトなんて紙の様に斬り取れる。コミックのようなスーパー・マンだつたらヒーローの真似事でもしながら慎ましく職に就くんだがな。

現実はそれほど美味しい訳がない。

自分でも笑ってしまう。そう、

“ヒーローごっこなんてやつてる暇があつたらより多くの給料が得られるように働かなければならぬからだ。”

G月C日

なんか〇5職員から特例として臨時のボーナスをもらつたんだが、何故だ？

今日はサイボーグ少女と話をした。一方的ではあるが、これまでの実験記録から、俺とならば何かしらコミュニケーションを取れるのではないかと研究者からクロス実験の申請が来た。

そこで俺はあの子を膝の上に乗せて絵本を読み上げることにした。まるで子供と幸せな一時を共有する親のように・・・。

それから一時間特に変化はなかつたが、普段観察している研究員からは、俺と一緒にいる間は目の光は赤から緑へと変わるらしい。それが友好的な意味なのかは分からぬが、ちゃんと個人に対しての反応があることが分かつただけ良かつた。

それだけに「編集済み」に対して許しがたい怒りを覚えててしまう。義憤で財団は動いてくれない。当然のことだ分かつている。

G月G日

今日もDクラスと一緒にせつせと173のフロアを清掃。なんか、Dクラスの間で俺と一緒にDクラス職員は安全に実験を終わらせることが出来るとか何処から出たかもしけぬ噂が出ている……らし

い

真偽の程は分からぬが、最近妙にDクラスの連中が馴れ馴れしいかと思えばそういうことか。脅して脱出の手助けをしろとかしてくる奴が出てこないか心配だ。173を抱えながら清掃すればあら不思議、誰も死人を出さずに清掃完了。

せつせと終わらせると、不意に妖狐変化、クミホのことを思い出し

た。

あれから全然音沙汰が無いが、最近までは彼女の食事の係りを務めていたのだ。元気にやっているのだろうか。ファーストキスは血の味とか、地味にトラウマなんだ。

思い出すとちよつと吐き気が・・・。

やめよう！はい！やめ！この話は終了！

最後は脱走したオールドマンを殴つて終了の一日でした。

G月☆日

最近〇5評議員からオールドマンと682を隣り合わせにして俺に両方を監視してもらおうという意見が出ている。

Y A M E T E K U D A S A I S H I N D E S H I M A I M A S U
ネットスラングにはあまり明るい訳じやないが、自然とこんな言葉が思い浮かんだ。ネットの環境も悪いからな、ここ。オールドAIのことを警戒してゐるんだろうけど。まあ、仕方ないよな。

昨日は広い隔離フロアで写真を見るという実験だつた。そしたら、なんか壁を突き破つてガリガリに痩せた白い奴が出てきて襲い掛かってきて、訳も分からず一日中殴り合いをする羽目になつた。おかげで腹が減つて仕方がない。

日記が一日空いたのはそのためである。あとで聞くとシャイガイという奴らしい。自分の顔を見た奴を必ず殺すほどの恥ずかしがり屋らしい。

恥ずかし……がりや？

俺の知つてゐる恥ずかしがり屋と違う。つと/or>いうか、全然顔写つてなかつたじやん、え？たつた4ピクセルで？

ちよつと神経質すぎやしないか？

G月Ω日

オメガ7時代の同僚が、今日死んだ。SCP-049ペスト医師が同僚をゾンビにした。それなりに友好があつたし、暇があればアシリ

スと一緒に会話に花を咲かせることだつてあつた。彼は俺の異常な力にも、アイリスの特異な能力も気にしなかつた。財団の中でも数少ない友人だつた。

とどめは俺が刺した。自分で決着をつけた。

死体は何も言わなかつた。それも当然だ。死体なんだからな。

その日の夜はアイリスと一緒に彼の死を悼んだ。願わくば、彼の死後が安らかであらんことを・・・。

T月Y日

今日はSCP-1054水精とコミュニケーションを取つた。既にオブジェクトクラスはSafeに設定されているので、それほどの危険性は無かつた。話はこういうものが好きとか、こういうことをするのが得意だと、そんな何気ない話だ。10分程度しか話してないが、相手からはそれなりに好印象を得られたようだ。

この調子で頑張つてくれと上司からは言われたが色々手探りなことが多すぎるから胃にとてもよろしくない。この身体になつてから胃薬が必要なくなつたのは良いんだけどね。

それから、今日はアイリスから久しぶりに食事に誘われた。最近の話題としては様々なSCPとのテストは痛かつたり、少し切なかつたりとあまり気持ちのいい話題は無い。アイリスは682の監視をしていて大丈夫なのかと聞いてきたが、大丈夫だと言つといた。

話している最中、アイポッドが食堂内を走り回つて俺の足にぶつかってきたのは良いアクシデントだつた。久しぶりに笑う彼女の笑顔は、初めて会つた時と変わらず素敵だつた。

金は俺が払つた。

気にしなくていいのにと言われたが、こういうのは男が払うものだ。

T月K日

ブライト博士からアイリスとの関係を訊かれた。俺は普通に良き

友人だと言つた。そしたら博士はなんか面白そうなものを見付けた
ような表情になつてゐた。取り敢えずデコピンして悶絶させた俺は
悪くないはずだ。アイリスまで彼の毒牙に掛けるわけにはいかない。
絶対俺達に何かしらのことをやるつもりだ。釘を刺しておいたが、や
めてくれるかどうかは分からぬ。

それにしても、財団はどうして俺に日記を書かせているのだろうか。もしかして日記にしないとやばい何かがあるのか？

それはそうだよな。何気なくやらせているものが下手をすればK
クラスシナリオになりかねないのがSCPだよな。

俺なんて、ひと暴れしちまえば、それこそ誰も止められなくなる。
さつき〇5評議員から直々に精神に作用するSCPとの接触を禁止させられた。

とだろう。胃の痛い話だ。
態々〇五評議員が来ると言ふのも、やはり、俺の力を警戒してのこ

T月M日

今日もせつせと173のフロアを清掃。誰も居ない時はゴリゴリと石臼みたいな音を立てて、人間を見付けたらそいつが目を閉じた瞬間にクソツタレな高速移動をしてくる。俺も一時期首をへし折られそうになつた。

全力で抵抗してやつたがな！

移動の瞬間には是非とも奴に俺のラリアットをかましてやりたい。
そうそう、今日は良いことがあった。くすぐりオバケがアイポッドに
連れられて俺の部屋に来た。

今日一日こいつらとプロレスがつこだ!

A
!

月日

昨日の時間がずっと続いてればよかつたのに。グツモーニン682！お前にはドラゴンステップレックスをくれてやる！この際だ。特に理由は無いがお前には俺の兵士時代の技の全てを受け止めてもらうぞ！

good day! (良い一日を!)

〇月
M
目

ごきげんよう諸君。日記を書くのは一日の終わりである夜にやるのがセオリーだが、現在時刻は夜の7時であり、子供も大人もワイワイイガヤガヤとどんちゃん騒ぎをしても許される時間だ。しかし、しかしだ。今俺の状況はどうなつていると思う？

文面だけではまあどうしようもない。だからこの俺が丁寧に状況を教えてやろう。妖狐変化が俺の隣で寝てる。しかも血塗れの俺を抱きしめて離さない。

残念だけど、そんな色気のある話じやない。いや、ある意味では色氣はあるのか？そもそもなぜ俺が血塗れになつてゐるのか。

今日、久しぶりに妖狐変化に食事を届けた。その瞬間なんかすごく喜ばれた。頻りに会えて嬉しいなどと言つてなんで会いに来てくれなかつたなどと言つてきた。色々と話をしてみると、彼女は俺が記憶を失つた一週間のことを知つているらしい。

詳しく教えてほしいと言つたら、覚えてないのか？と逆に訊かれ
た。覚えてないと正直に答えたら、愕然とした表情になつて、表情か
ら色が抜け落ちた感じになつていた。

書くの疲れた。とにかく、それくらい何度も抜き取られた。再生するたびに激痛を味わうので、正直きつかつた。抵抗しようと思えば出来たが、彼女が心底悔しそうに、悲しそうに泣いている姿を見て、出来なかつた。

いつたに何があつたのかわからなかつたか・・・いや「正確には覚えていない」か。俺の心に浮かび上がつたのは、罪悪感だつた。

だから、俺は彼女の好きにさせてやつた。

とまあ、深刻そうに書いているが、単純に言えば、傍から見れば妖狐変化は俺の肝臓をやけ食いしたということになる。そして、現在に至るわけだが、満足そうに眠っている彼女を見て邪魔する気も失せたのだ。取り敢えず今日はここまでとする。

かなり長く書いてしまつたが、まあ、今日はそれくらい衝撃的だつたということを話のオチとして付けておく。

「う」

一息ついたことで自然と溜息が漏れた。血のにおいが充満するこの生臭い部屋の中で、彼女の安らぎ切った寝息が微かに聞こえる。

自分の姿を見下ろしてみる。白のワイシャツは血で真っ赤に染まり、上に羽織つてある黒のスースはご覧のとおり目立ちはしないものの

「スーツ新品だつたんだがなあ……」

これは買いなおさないといけないようだ。自然と溜息が漏れた。視線を部屋の隅へと移す。隔離フロアに取り付けられたカメラは

相変わらずこつちを見て居るが、エージェントや研究員が動く気配はない。これだけの惨状を見せても慌ただしい気配を見せないという

ことは、つまりこれも実験なのだろう。

自然と虚空に消えるような乾いた笑みが漏れる。一つ間違えれば死にかねないどころか世界が滅びかねない職場など、ブラックを通り越してダークネスな企業である。

とりあえず、今もカメラ越しの画面から見ているであろう担当の科学者に向けてシーツと静かにするようにと言うジエスチャーを送つておくのだった。

あと、これは蛇足だが、後日ジョン・ドウに通達された食事を届ける命令は正式には出ておらず、上司のミスであつたことが判明する。

ぎやふん。

更に蛇足だが、放つておいて下手をすればKクラスシナリオに発展寸前であつたということは誰も知らない。

第四話 SCP-Containment Breach

a
月
y
目

クミホ（SCP-1953）との修羅場が終わってから約一ヶ月が経つた。今まで日記が書けなかつたのは、それまで彼女とはほとんど一緒に、所謂同棲まがいのことをしていたからだ。

これは初期の同棲生活ですぐに分かつたことだ。さて、何故俺が二ヶ月もクミホの隔離部屋に住んでいたのかというと、スマートに紳士的な対応で以て彼女に俺の外出を許してもらうために説得をしていたからである。

この間、もはや3桁では数えきれない数の肝臓を喰われたのだが、その甲斐もあつて、こうして日記を書いている。しかし、不可抗力とはいへ二ヶ月も働くことが出来なかつたのは財団にとつて大きな損失だつた。

〇五 評議員が2晩にも渡る長時間会議の結果、俺は二ヶ月の給料カット、それから記憶処理をせずに数人の監視がつくことになり、そして、オールドマンとクソトカゲ、そして妖狐変化三つのSCPを同時に管理、監視、対応を任される特命Aクラス職員兼エージェントとして任命されることとなつた。

この指令が言い渡された時、爆笑するブライト博士と、引き攣つた笑みを浮かべているカインの顔が印象的だつた。とりあえず、クソトカゲをボコボコにしておいた。

ちよつとスツキリした。

α 月 γ 日

最近財団が新しい隔離施設を建設中らしい。なんでも革新的な新技術を集めて画期的なSCP管理方法を試験的に運営するそうだ。自爆用の核弾頭は殆どデフォルトの設備だが、肉体的接触による捕縛、対応が可能なSCPを主に集めるらしい。

嫌な予感しかしない。クミホから「貴方がその身体で管理する施設なのではないですか?」という言葉に俺の嫌な予感は更に加速せざるを得なかつた。今更だが、もうナチュラルに彼女が隣に居ることが当たり前になつてゐる。

なに? 「夫を立てることが妻の仕事です」?

H A H A H A n i c e j o k e.

肝臓どころか心臓まで喰われた。仮に妻だとして、こんな家庭内暴力が日常茶飯事は絶対嫌だな・・・。

というか妻つて・・・。そういうれば、結局俺の消えた一週間の記憶はどうなつたのだろうか。クミホに関係することなのは確かなんだが、〇5は一週間俺とクミホは何もしていなかつたの一点張りだつた。今更掘り返しても記録として得られるのは望み薄だろうが、彼女の言動からしてつまり、その、なんだ?

アハ～ンなことをシチャつたということか? そうなのか?まあ、今更な気もするが・・・。

クレフ博士が聞いてたら激怒しそうだ。

α 月 Ω 日

案の定でした。誰にもしやべつてないしどうやつて知つたのかも知らないけどクレフ博士頼みますからショットガンで走つて来ない

でください。怖いです。

Y A A A A A A M E T E K U D A S A I S H I N D E S H I M
A I M A S U U U U U U U !

あ、この日記読んだのか。

俺のプライバシーとはいつたい。

α月β日

S C P—939が脱走したため、俺に捕獲要請が来た。妖狐変化がここにいろいろとこねてくるが、後で、何か買つてご機嫌を取ることにする。

S C P—939は見た目はあのクソトカゲと似ている。それをスケールダウンさせたような感じだ。人間の言葉を覚え、それで人間をおびき寄せて食すという賢いトカゲだ。と言つても彼奴ほど力が強い訳でもないし進化するわけでもない。見つけて尻尾を掴んで引きずつて新しい収容スペースに押し込めば完了だ。

今日も死者ゼロ。中々良い働きが出来たと思う。

β月△日

ダメもとで最後の情報公開の申請を出した。クミホと俺の間に何があつたのか、監視カメラの映像だけでも知りたかった。そしたら、意外なことにあつさりと申請が通つた。俺の今のレベルであれば映像だけならば十分見ることが可能だつたらしい。全ての情報を知るとなるとレベル5のシーケンスが必要だが、映像だけならば大丈夫らしい。それからこの情報を閲覧するにあたり、以後クミホに対して、あの日、自分と彼女の間に何が起つたのかを決して聞いてはならないと厳重注意を受けた。

まあ、何にせよ、俺の記憶の一部が分かる。

音声は無い。監視カメラの映像は虚ろな目でクミホに食事を与える俺の映像。マツサージをしたり、話し相手になつたりして、目の部分を除けば傍から見ればいつもと変わらない様子だつた。だが不意に、まさしく突然俺は白目をむいて気絶した。クミホに圧し掛かる形

で気絶した俺を見て、彼女は酷く狼狽しており、監視員に何か呼びかけていた。

その直後、蜘蛛の糸のような白いひも状の何かが俺の全身から溢れ出て、クミホゴと包み込んでいき、繭のようになつたところで、映像は途切れた。

なんだ……これは?

いつたい何がどうなつてる。

中で何があつたのか、まったく意味がわからなかつた。

結局のところ分かりました

O X
M 月
G ○ 日

緑のファ〇〇ンスライム怖い。
死体にかかるとあんなことになる

なんて全然知らないみたい

そしてどさくさに紛れて逃げようとするオールドマンを収容ス
ペースにS M A A S H ! S U P E R EX I T I N !
クミホも一緒に面白半分で逃げようとするんじやあない！

γ月α日

今日奇妙な夢を見た。ドリームマンと呼ばれるKeterクラスのSCP。夢の中で何か害を及ぼすようなSCPではないが、こいつはSCPに関する破滅的な予言をする。俺はこいつの座るベンチの隣でまるで友人と話すかのようにサンドイッチとコーヒーを嗜んでいた。

友人のようにというだけであつて、胸糞が悪くなるような話ばかり
ごつごがな。

■■■当然夢の内容は覚えている。これから起ること。あるSCPが世界を完膚なきまでに滅ぼすということ。そのSCPはSCP-■■■でさえ止められない、変えられない、消すことも出来ない。

人間が地球の災害 台風の軌道を変えられない様に、そのSCPは正しく大規模な台風のSCPバージョン。その名は███████████

A vertical column consisting of 20 solid black squares arranged in a single column, representing a binary sequence of length 20 where all values are 1.

だが、彼奴はこんなことも言つていた。俺という存在はそのSCPすら破壊できるSCPに成りうると。なんなんだ一体？

俺は可者なんだ?

その疑問は、ドリームマンが教えてくれた。

そもそも俺は人間から生まれて、偶然生まれたSCPではない。お

れ

の

S

C
P

ナ

は

ンバー

俺の

本当の

◆◆◆レベル5の起動申請を承認プロトコル2000を始動◆◆◆

◆◆◆起動シーケンスを開始◆◆◆

U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I
N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
: U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O
N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I
w h o a r e y o u ?

.....

10

◆◆◆イレギュラー発生プロトコル UPLOADING :

LOADING : UPLOADING : UPLOADING :
UPLOADING : UPLOADING : UPLOADING :
UPLOADING : UPLOADING : UPLOADING :
■ ■ ■ の UPLOADING :

U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G :

U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N
G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N
G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N
G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N

U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G :

ADTING : UPLOADING : UPLOADING : U

U F L C A D I N G : U F L C A D I N G : U F L C A D I N G : U F L C A D I N G : U P L

U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O A D I N G :

U P L O A D I N G : U P L O A D I N G : U P L O

Kクラスシナリオ……………回避

プロトコル00000に従い再構成を行います。

構築……エラーが発生しました。

再構築中…………エラーが発生しました。

エラー箇所をバイパスして再構築..... complete

C月B日

不味いことが起きた。施設の不調が度重なり、複数のSCPが脱走した。オールドマンを逃げない様見張つてはいるが、その日は更にまずいことに173が収容格納庫から逃げた。ナインテイルズ出動要請が出ているが、果たして間に合うかどうか・・・。オールドAIにも余計なことはしてほしくはないが、どこぞのDくらす職員が脱走の為に何をやらかすか分からぬ。職員救助のためにもここで一旦――

「！」

振り向きざまの裏拳が固いごつごつとした物を捉えた。視界にとらえた彫像は動きを止め、ゴトリと床に着地した。

「S h i t !」

見覚えのある石像、名無しの兵士ジョン・ドウの視界がとらえたのは件の脱走した173の姿があった。

瞼が閉じられる。

同時に拳を突き出す。次に瞼が拓いたときには173が壁にめり込んでいる。

再び瞼が閉じられる。背後へと肘鉄を喰らわせる。一瞬の瞬きだが、173はその間に高速移動でこちらの首をへし折ろうとしてくる。シェルターの扉を開く、そこは色んな意味で科学者たちに愛されるSCP-682が収容されている隔離フロアだ。咆哮を上げて682が脱出しようとしてくる。682の目の前には吹き飛んでいる173の姿があつた。

奴に取つては二度と戦いたくない相手だろう。一瞬で全身から複数の目を造り出して、173を凝視続ける682の隙をジョンが突き刺す。

「お座りだクソトカゲ！」

落書きの書かれた173の頭部をひつつかみ、鈍器のようにして682を殴り飛ばし、フロアの奥へ叩きこむ。そこにまるでプレゼントの箱にリボンを添えるかのように173を投げ込み、強引にシエルターを閉じた。

「睨めっこでもやつてろ」

大急ぎで自室に戻り監視カメラを見やる。三つ存在するモニターにジョンの表情は更に険しいものへと変わる。

「くそー！」

ひとまずこれで173と682を同時無力化は成功するものの、ジョンの管理するオールドマンは脱走、ついでにクミホまで逃げ出していた。それなりに付き合いの長い彼ら？だが、規模の大きさ問わずどさくさに紛れて逃げ出そうとするのはもはや恒例行事になりかけている。

「m o t h e r f u ● k e r f u c k ● n f ● c k！」

やられる側としてはまつたくもつて嬉しくない事態だ。一番近いサイトにいるエージェントたちに救難信号を送つたが、果たしてそれまでにこの施設が更地にならなければいいが…………。

さて、この大規模なトラブルが発生した原因、突き止めてやりたいところだが、ことはそんなことを言つてられない事態だ。出来るだけ職員の人命を助けつつ、一つたりともSCPをこのサイトから逃がさないようにする。

「これで給料上がらなかつたら恨むぞ〇5評議員」
まずは目元の目標はオールドマン捕獲からだ！」

第五話 エージェントJ、走る

●月？日

さて、警報がひつきりなしに鳴り響いて五月蠅いが、とりあえず走り回ることにする。それなりに財団施設全体のルートは把握しているが、ここは迷路みたいになつていて時折何処を走っているのか忘れそうになる。

途中の十字路に差し掛かつた時、パイプの上にクマのぬいぐるみが居て俺に紙を渡してきた。それはDクラス職員？らしき服装をした人間の絵。ナンバーらしきものが書かれているが字が下手過ぎてよめねえ……。

あの五月蠅いクマは別として、いろんなものを作つてたんだなあ、あのクマ。材料は人間の肉だが……。

というかアヒルの玩具まである。一応 safeクラスのSCPだが……完全に収容できてないようだ。やつぱりだが、どこぞのSCPが脱走したか、何かのはずみで財団の管理システムが全部解除されていやがる。

一つ一つどうにかしたいが、職員も出来れば助けたい。同時にやらなきやなるまい。俺SCPで収容されなきやならない筈なのに働きすぎな気がしてきた。

なんて考えて居たら、曲がり角でばつたり誰かとぶつかりそうになつたので、床を蹴つて壁をぶん殴つて軌道を変更、風圧で吹き飛ばされる誰かの後ろにもう一度床を蹴つて壁をぶん殴つて回り込んで受け止める。

それなりの体格をしているから男か。服装を確認するとDクラス職員のようだ。ナンバーは……D-9341か。

とりあえず生存者一人目を確保した。俺、ジョン・ドウ、よろしく。
……なんだか久しぶりに自己紹介した気がする。

クソトカゲどもを管理する部屋にナードよろしく引き籠つてたからなあ、人と話す機会が無くなるのも無理はないか。

次のページ

D—9341と一緒に歩くことになったが、こいつ……。

どうしようもねえアホだ

誰が好き好んで危険なSCPに近づく馬鹿が居るっ!?それも、試せることは何でも試そうとしやがる!?

馬鹿だろ！お前馬鹿だろお!?

資料読んだよな!?危険だつてわかつてるよな!?オレが教えたよな!?なんで触れようとする!?なんで隔壁開ける!?馬鹿じやねえのお前!?マジで馬鹿だ！アホだ！

しかも悪びれる態度もねえ……無表情そのものだこいつ。ああ、だけどゼンマイ仕掛けを使つてセキュリティーカードのレベルを上げるつて試みは大したもんだ。発想が良い。

だけどさ、自分で入ろうとすんなよ……。それで本当に大変だったんだからさ。諦めろ、な?

とか色々話して居たら救急箱とか渡された。いや、俺傷は付かないし、仮に傷が出来てもすぐ再生しちゃうしな。

ん……電池?……あ、物持ち?なるほどね。あ、万能薬発見。

一応D—9341と話し合つてみたが、こいつの目的は一刻も早くこんなところから脱出して元の生活を取り戻したいそうだ。

…………。

流石に脱出して元の生活に戻ろうとするなら俺もこいつを捕まえなきやならん。

俺は人間のつもりだ。だからこんな状況を直ぐに脱して家族の下に、故郷に帰りたいという気持ちが芽生えるのも良く分かる。

だが、俺はSCPでもあり、財団の職員……エージェントだ。

気の毒だが、収容期間をちゃんと完了してからしてくれ。その代わり今限りだが、必ず保護することは約束する。それが俺に出来る唯

一の精一杯だ。

だけどさ、死にたくないなら危険なSCPに出そうとするなよ？ 良いな？ 手を出すなよ？ フリじゃないからな！？ つておいおい走るな！ 走るな！

次のページ

そうして、廊下を移動し、T字路に差し掛かると、その中央の床に黒いシミのようなものが広がっていた。

ポケットディメンションと呼ばれるソレは、オールドマンが作り出した“穴”だ。一応忠告はしておく。そこに入ると脱出はほぼ不可能だからな？ 気を付けろよ？

あ！またこいつ飛び込もうとしやがる！チャレンジ精神旺盛だな
おい！それで資格でも取つてろよ！社会で役立つぞ！

とかあーだこーだしていると、俺達の後ろの床から黒いシミがにじみ出て、そこから人型が出てきた。俺が良く知るあのSCPだ。

らもしかしたらと思つてたが、やつぱりか……んで、丁度年齢的にも
ドンピシャなD—9341を狙つてきたということか。

なにアスリート選手よろしく穴に飛び込んでんだてめえ——ツ
!? オールドマンも呆気に取られてるじゃねえか!?

警告：

機密指定

財団データベースへの許可無きアクセスは固く禁止されています

違反者は追跡、特定、拘留されます

人類は

恐怖から逃げ隠れていた時代に
逆戻りしてはならない。

他に我々を

守るものはいない。

我々自身が立ち上がりなければ
ならないのだ。

確保し、収容し、保護しろ。
確保し、収容し、保護しろ。

◆警告： H M C L および O 5 による承認が必要◆

貴方がアクセスを試みているファイルはレベル 5 / █ █ █ █ █
クリアランスを持つ人員にのみアクセスが許可されています。この
クリアランスは通常のレベル 5 セキュリティプロトコルに含まれま
せん。

必要なクリアランス無しにこれ以上のアクセスを試みることは財
団による雇用の終了、全ての教育上、医療上、退職後、あるいは死亡
時の福利厚生を取り消す根拠となります。

資格認証のため、貴方はこれをもつて既知の情報災害的画像に暴露される事に同意することとなり、貴方が画像に対する予防措置を受けていることを確認します。認証されていないアクセスの場合、このコンソールは操作不能になります。

保安要員が派遣され、貴方を蘇生した後に尋問のため留置房へ護送することになります。財団のイントラネットに接続されていないいづれのコンピューターからこのファイルへアクセスを試みることも、クリアランスに関わらず即時終了をもたらすこととなります。

「ログイン資格を提示せよ：要レベル5／█████クリアランス」

⋮ ⋮ ⋮

意識が確認されました。ファイルを取得します。

•
•
•

NG： UPLOADING： UPLOADING：

20 ■■ / ■■ / ■■

電源質の各部品に突然発生した異常劣化によつて発生した件の騒動は複数のSCP脱走を招き、危うくKクラスシナリオが発生する危険性を大いに内包していた。我々にとつて幸運だつたのは、エージェントJ。騒動の中心にいたSCP（編集済み）がこのサイトに居たということだ。

彼が行つたことはざく単純なもの。脱走したSCPをその手で捕まえ、収容フロアに押し込んだというものの。収容されたSCPは特に問題なく現在も収容フロアの中に居るが、特に変化の見られた個体が存在する。

SCP106（オールドマン）とSCP096（シャイイガイ）には疲労困憊の様子が見られていた。精密機器によるスキヤンの結果、全身に殴打の跡が残つていた。

件のトラブルが収束してより一ヶ月の日が過ぎたが、未だに当該SCP達には殴打の跡が残つており、回復の兆候は見られずそのままの状態で固定されているように見受けられる。エージェントJの持つてゐる能力に更なる謎が深まつた瞬間でもある。現状分かつていることは物理的法則を無視した身体能力とSCPから受ける肉体的影響を餞別、取り込むことによる自身の自己改造、SCP682（不死身の爬虫類）に匹敵する再生能力。これらに、殴打することによるあらゆるもののが状態を固定するという物が追加された。

〇5より追加の調査報告要請を受けられだし、隨時報告を求む。